

ダイアシア ディアマンテ™・シリーズ

秋口と早春にそれぞれパンジーと同じ作型の出荷が可能です

- ファンタスティック・フラワーズ™の1セレクションです
- ディアマンテ™・シリーズは、生産管理のしやすい実生品種です
- ピンチなしでも美しい分枝とバランスのよい草姿を実現し、リードタイムが短く労務コストや生産コストを節約することが可能な品種です
- ディアマンテ™・シリーズは、たとえば秋口や春先のポット販売やミックスコンテナに植え付けての販売など様々な用途が可能です。ポット販売の場合は、寄せ植えや花壇定植のどちらでも使い勝手のよい品種です
- 暖地の海岸沿いなどのように冬場の気候がさほど厳しくない土地では、ディアマンテ™・シリーズは冬場も休まず花をつけます
- ディアマンテ™・シリーズはマルチペレット種子を供給

本品種の学名: *D. barberae*
種子粒数(マルチペレット種子): 175粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、衛生的でピート主体の培地を用いる。土壌 pH を 5.5 から 6.1、初期養分の値は中庸 (EC ≤ 0.75 mmhos/cm, 1:2) の範囲とする

播種

マルチペレットからは、だいたい 3 から 4 日ほど発芽する。トレイのサイズは 288 から 406 穴が適当。粗めのパーミキュライト等で軽く覆土する。発芽には 4 から 6 日要する

温度

発芽(ステージ 1):	18 から 21°C
子葉展開(ステージ 2):	18 から 22°C
本葉展開(ステージ 3):	18 から 21°C
育苗後期(ステージ 4):	16 から 18°C

光条件(照度)

ステージ 1:	発芽時に光は不要
ステージ 2-3(発芽終了後):	10,000 から 30,000 ルクス (1,000 から 2,500 f.c.)
ステージ 4(育苗後期):	温度域が適正ならば、最高 54,000 ルクス(5,000 f.c.)まで上げることが可能

湿度

子葉が現れるまでは、相対湿度 95%を維持

培地の水分

幼根が現れる頃までは水分を高めにし、根が培地の中を行き渡るにしたがって水分レベルを下げる。乾かしすぎて、苗を枯らせないように注意する

肥料

幼根発生の時点: 14-0-14 か 13-2-13(あるいはこれに近い比率)の肥料を 50 から 75ppm(N) で与える

本葉展開以後: 上記の要領で濃度を 100 から 150ppm くらいまで上げる

矮化処理剤

必要に応じて、ステージ 3 で B ナインを 2,500ppm 散布

ポット上げから出荷まで

用土

水はけがよく、衛生的でピート主体の培地を用いる。土壌 pH を 5.5 から 6.2、初期養分値は中庸の範囲とする

温度

昼間温度:	16 から 19°C
夜間温度:	10 から 16°C

光条件(照度)

適温域にある間は照度をできるだけ高めに維持する

かん水

極端な過湿や乾燥は避ける。乾かしすぎて、苗を枯らせないように注意する

肥料

1 週に 1 回の頻度で、15-5-15 (20-10-20 による代用可) の比率の肥料を 200ppm(N) で与える。ダイアシアは、必要に応じて鉄を補い欠乏を防止する。窒素切れによって、花芽が早くついてしまったり、株の色が薄くならないように注意する。土壌は EC 値を 1.5 から 2.0mmhos/cm(2:1)、pH を 5.8 から 6.2 の範囲内とする

矮化処理剤

温度が低い条件では、3,000 から 5,000ppm の B ナインを定植後 1、2 週から、複数回の散布を開始する。温度が高い条件では、ボンザイ 10 から 20ppm の 1 回投与で株のバランスの維持に効果が確認されている。ボンザイを用いる場合は、ダイアシアはとても感受性が高い植物なので、使用倍率(濃度)は十分に注意が必要。また、温度が低い場合も高い場合も、A レストの 20ppm 投与で株の勢いを一時的に抑える効果があるが、効果は持続的ではない

ピンチ

ピンチは不要

栽培のスケジュール

播種からポット上げまで(288-400 穴トレイ): 4 週
ポット上げから開花・出荷: 6 から 8 週(下記参照)

コンテナ サイズ	株本数 /鉢	鉢上げから 開花までの 週数	播種から 開花まで の週数
306 プレミアム パック*	1	6-8	10-12
10-11cm ポット	1	7-8	11-13
15-16cm ポット	3	7-8	11-13
大鉢 (18cm 以上)	3	7-8	11-13

*: やや大きめのカットバック。容積は 9cm ポットよりもいくぶん小さい

予想される一般的な障害等

害虫: デイアマンテ™シリーズは、病害虫による被害は概ね少ないが、近隣からの流布による INSV(黄化壊疽病・Impatiens Necrotic Spot Virus)感染の疑いが見出されることがある。とくにスリップスには十分注意する
病気: 高頻度の病例報告は現在のところ確認されていません

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を基準としているので、質の異なる土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed™

PanAmSeed.com

®および®は Ball Horticultural Company のアメリカおよびそれ以外の国における登録商標です。

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road
West Chicago, Illinois USA 60185-2698
630 231-1400
Fax: 630 231-3609

PanAmerican Seed Europe BV
Lavendelweg 10
NL-1435 EW Rijssenhou, Holland
+31 (0)297-383038
Fax: +31 (0)297-383036

©2004 Ball Horticultural Company Japanese translation version
Originally printed in USA PAS05049